



生徒らからワスレナグサを受け取る作間副理事長

来月「ワスレナグサ」イベント

東日本大震災から3年に合わせ、県内の農業高生たちが被災地を忘れないでとの思いを込めて育てたワスレナグサが3月に都内で行われるイベントで配布される。

イベントを主催するほどの運動協議会(東京)が、磐城農高(いわき市)と相馬農高(南相馬市)の生徒らにワスレナグサの栽培を依頼。生徒らが栽培したワスレナグサに被災地を忘れないでとの願いを込め、「祈

農業高生ら栽培 震災復興へ願い

り貝」と名付けた宮城県南三陸町で磨いたホタテ貝とともに8、9の両日は東京メトロ銀座駅、16日は代々木公園でそれぞれ配布。8日は磐城農高、16日は相馬農高の生徒たちが参加し、会場で直接手渡し予定となっている。

同協議会の関係者は14日、栽培を依頼した磐城農高を訪れ、生徒たちが丹精して育てたワスレナグサを受け取った。

磐城農高では園芸科の生

徒が中心となってワスレナグサをビニールハウスで栽培。大雪の影響でハウスが崩壊したが、育てていた千鉢のうち900鉢は無事だったといい、このうち500鉢を同協議会に贈呈した。

同日は同協議会の作間由美子副理事長・事務局長らが同校を訪問。作間副理事長はプロジェクトについて説明するとともに、生徒たちに感謝の気持ちを伝え、園芸科2年の小野梓さんは「ハウスが雪でつぶれてしまったが、育てたワスレナグサを渡すことができて良かった。震災復興のイベントに貢献できてうれし」と栽培に携わった同級生たちの思いを代弁した。

議会は16日、いわき市の小名浜公民館で善行顕彰表彰式を行い、模範的な行動をした児童を表彰した。地域や人のために善い行いをする児童、生徒を奨励すること子ども道徳心向上や情操教育につなげようと毎年実施。同協議会の佐藤保久副会長(小名浜一中校長)が表彰状を贈り児童たちの優しい心をたたえた。

永崎小の四家佑菜さん(3

小名浜で善行顕彰表彰式

年11月から自主的に、学校近くの洋向中央公園でゴミ拾いをして、環境美化に努めている。東小5年の浦井洗晶君、国分雄太君、佐藤和輝君、阿部達也君、6年の今野晴生君は先月、道路で立ち止まっていたお年寄りがいることを、近くの教会に伝えた。お年寄りは体調が悪かったという。また、お年寄りの自転車を病院まで引いて行くなどした。



に実行章を贈り、小さな親切の実践をたたえた。

大井君は昨年10月、宮城県内のゲームコーナーでお年寄りが落としたコインを拾い集め助けた。相良君は昨年の夏休み、相馬市のスーパーで階段を上ろうとしていたお年寄りの荷物を持ち一緒に上った。同日は、東邦銀行原町支店の佐藤健



会場を呼び掛ける(左から)新妻さん、佐藤さん、八巻さん

で167頭と激増している。町ではこれまでに、報償金を交付するなど有害鳥獣の捕獲に取り組んできたがさらなる対策強化のため協議会を設立した。協議会では、有効な対策を協議し、被害防止に取り組む。役員選出では、会長に目黒清明さん、副会長に門馬英綱さん、監査に佐々木幸清さんと水戸健一さんを選んだ。



有害鳥獣の対応を考えた協議会

税に関する無料相談会
22日から常陽コンサルタンツ

常陽経営コンサルタンツ(いわき市、根本勝祐社長)は22日から、同市内3カ所を会場に「確定申告・相続無料相談会」を開催する。

全3回開催。第1回は22日、同市のイトーヨーカドー平野2階の交流スペース「ぶらっと」。第2回は3月1日、同市のリスポ1階